会長とグンウォン	1	
会長とカン・ミンジョン		1
会長とスア	1	1
セロイの父とスア	2	
セロイの父とセロイ	2	
イソの母とイソ	1	
イソの母とセロイ	1	
セロイとカン・ミンジョン	1	
セロイとキムスンレ	3	

（1）異性愛関係の強調

表3から、セロイと二人のヒロインの関係を強調するシーンが多く追加されたことがわかる。セロイとイソ、セロイとスアの恋愛模様、その三角関係が翻案において重要視されたことが読み取れる。さらに言えば、セロイとスア、そしてチャン会長の長男でセロイを刑務所に送り込んだ原因となるチャン・グンウォンの関係にも三角関係が持ち込まれた。グンウォンがスアに対して恋愛感情を抱いていることが示されることで、グンウォンとセロイの「敵」としての対立関係がより強調されている。

この二つの三角関係を見てみると、セロイとグンウォンという男性同士の対立はより明確にされたのに対し、イソとスアの関係が特に強調されることはなかった。セロイとグンウォンはセロイとチャン会長の敵対関係をより鮮明にし「英雄譚」としての物語を強化したといえる。しかしイソとスアの関係にこうしたモデル／ライバル的な要素はあまり見当たらない。ウェブトゥーンでは、セロイが真に愛しているのはイソであると気づくシーンにおいて、スアがそれを促すという重要な役割を果たす。しかしドラマではセロイ自らが己の感情に気づくシーンへと変更された。このことによって、スアがイソを信頼し、セロイを任せるに足る人物であると評価していること、女性二人の間にある信頼関係のようなものが見えにくくなった。スアとイソは、より一層セロイとの異性愛的な二者関係を中心に描かれたといえるだろう。

恋愛関係の強調は、主人公たちの関係にのみ見られるわけではない。例えば、オ刑事とカン・ミンジョン理事のエピソードの追加にもそれがみられる。セロイに協力する過程で、二人は次第に親密度を増していくが、最終的にそれは恋愛関係の始まりを暗示するシーンへと接続される。先にも上げたように、マ・ヒョニとスングォンの関係も、恋愛関係を予想させるようなものとして追加された。

それに対して、セロイを中心とした三角関係のうち、セロイとイソ、グンスの三角関係はやや弱められたといえる。これは、次に検討していく。

（2）義兄弟的関係描写の省略

翻案にあたって大きく削られたり、変更を加えられたりしたのはセロイとチャン会長の次男であるチャン・グンスとの関係である。グンスがセロイを精神的な支えとしていることを示すシーンや、グンスが自らの欲望に忠実に行動するためセロイの敵になる選択をした際、セロイは敵になることを認識しつつもグンスの孤独をうけとめ、自分たちの関係が失われることはないと暗に示すセリフがドラマの翻案にあたって削除された。これによって、セロイとグンスの間にあった義兄弟的な信頼関係の描写が弱まった。さ